

(1) 英語教育における学士力考察

英語教育FD/IT活用研究委員会は、21年7月、8月、10月、11月の4回開催した。委員会では、英語によるコミュニケーション力、異文化理解力などについても検討したが、「英語教育の中では限界がある」、「教育の範囲を限定すべき」などの意見があり、高校課程での基礎力の上に大学教育としての英語運用能力、英語で理解するコミュニケーション力、さらに専門基礎分野の語彙・表現力として、見直しを行った。その上でサイバーFD研究員699人に意見を求め、65人(9%)の意見を踏まえ、以下の通りとりまとめた。ここでは、「コア・カリキュラムのイメージ」、「測定方法」を割愛したので、詳細は資料編【資料5】を参照されたい。

【到達目標1】

英語の基本語彙や基本文法をもとに、より高い技能と運用能力を身に付けている。

【到達度】

- ① 大学入学時までに培った語彙力を前提に、さらに必要な語彙を獲得し、活用できる。
- ② 大学入学時までに培った文法知識を活用して、英語でより適切な表現ができる。
- ③ 日常的な話題を読み・聞き、口頭や文章で伝達することもできる。
- ④ 社会の身近な話題について英語で意見を述べ、発表・質問することができる。

【到達目標2】

英語で情報を理解して考えをまとめ、対話を通じて情報・意見などの交換ができる。

【到達度】

- ① 英字新聞やインターネット上の英文情報などを概括的に理解し、また英語文献を精読できる。
- ② 英語版ラジオやテレビ番組などを視聴・鑑賞して、番組の概要を伝達し、意見交換できる。
- ③ 様々な英語使用者と口頭や文書で自分なりの表現を用いて意見交換することができる。

【到達目標3】

専門分野の必要性に応じて、適切なレベルの英語語彙・英語表現を使用できる。

【到達度】

- ① 専門分野における英語文献や英語の講義・講演などを概括的に理解できる。
- ② 専門分野におけるテーマについて自分の考えを英語で作成し、発表することができる。

(1) 英語教育における情報教育

英語学教育FD/IT活用研究委員会は、学士力考察をとりまとめた後、21年12月、22年2月に2回開催した。検討は、演習などを通じて情報倫理に配慮して情報の収集・整理から情報発信に情報通信技術を利用できるようにするとともに、翻訳ソフトの利用、英語の発信・表現による文化摩擦の予防、複数とのテレビ会議等を介した発信の体得などを取りあげた。

【到達目標1】

情報倫理の重要性を理解した上で、英語学習に必要な情報通信技術を身につけている。

【到達度】

- ① 表現の検索、文献・資料の収集・理解に情報通信技術を利用できる。
- ② 文の作成、編集、翻訳などに情報通信技術を利用できる。
- ③ 音声・画像データなどを通じて効果的に発信するために、情報通信技術を利用できる。
- ④ 剽窃、盗用、発信・表現による文化摩擦などに配慮して情報通信技術を利用できる。

【教育内容・教育方法】

①～④は、検索・文章作成・通信ツールなどを教え、演習などの授業を通じて情報倫理に配慮した情報の収集・整理、文章作成、発信などを指導し、体験させる。

【到達度確認の測定手段】

①～④は、学習支援システムを利用し、自己評価、他者評価、小テストなどにより確認する。

【到達目標2】

総合的なコミュニケーションに必要な情報通信技術を身に付けている。

【到達度】

- ① 相手と効果的な英文発信を行うために情報通信技術を利用できる。
- ② 複数の相手と協働して交渉・意見交換するために情報通信技術を利用できる。

【教育内容・教育方法】

①と②は、電子メール、テレビ会議、学習支援システム、電子掲示板などの使い方を教え、演習を通じて、英語による発信や交渉・意見交換を体験させる。

【到達度確認の測定手段】

①と②は、情報支援システムを利用し、他者評価、学習ポートフォリオ、小テストにより確認する。